

EUSI メールマガジン Vol. 033

「Fifth Euro Asia Summer School で学んだこと」(EUSI サマースクール体験記)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI サマー・スクール参加者体験記】

「Fifth Euro Asia Summer School で学んだこと」

本間篤実 (慶應義塾大学経済学部3年)

今回の Euro Asia Summer School は8月18日から31日の約2週間、ソウル国立大学とルーヴァン・カトリック大学で行われました。

1週目にソウル国立大学での講義と会議、そして韓国銀行やサムスン電子への訪問を行い、2週目にはルーヴァン・カトリック大学にて講義とワークショップがあり、また欧州連合の統治機関を見学しました。

このサマースクールを通して私が学んだことは多岐にわたります。東アジアの地域統合の可能性、EUの歴史と今後、両地域の経済的関係など、一つ一つが壮大なスケールを持っていてなおかつ複雑であるために、自分だけでは考えることもできない諸々のテーマをカバーした大変有意義なサマースクールでした。

中でも最も印象的だったのは学生たちがグループを作って行ったワークショップです。私が所属していたグループはEUとASEANの双方の人権について考え、発表することになり、私はASEANの人権宣言について調べることになりました。その中で強く認識させられたのは、私自身が日本人であるということでした。

ASEANの人権宣言は、その地域が人権保護への第一歩を踏み出したことの象徴として評価される一方で、内容が厳格でないことから多くのNGOからの批判を受けています。特にその第7項には、"the realisation of human rights must be considered in the regional and national context"と記されている部分があり、国家の事情によって人権が侵害されることがあり得るため、これでは不足だとされているのです。たとえばヒューマン・ライツ・ウォッチは "The document is a declaration of government powers disguised as a declaration of human rights."とまで厳しく批判しています。

そこで、私はそれが実際に不足なのかどうか調べるため、人権が侵害されているケースを探すことにしました。ASEANの国々の中には14歳以下の子供が労働に従事させられていたり、不当な理由で特定の宗教の信者が肉体的苦痛を受けるなどのケースがあったことがわかり、私はそのようなケースの増減を見ようと考えました。

そのためにまず何が人権侵害に当たるのかを定義しようとした際、英国出身の学生に何が人権侵害に値すると思うかと尋ねると、「たとえば過剰な労働とか女性差別、それから死刑もそれに当たると思う」という答えが返ってきました。英国は死刑を廃止している国であり、日本は死刑を存続させている国です。私自身、これまで死刑制度に対してさほど疑問を感じておらず、人を殺して

しまった上に反省もしていなければ死刑になってしまうのは仕方がないのではないかという程度の浅い考えしか持たず、そこで停止していました。しかし、イギリス出身のその学生からすれば、国が人を殺すということは残酷で、人権侵害にカウントされるべきことだったのです。もちろんそのような議論は本の中で読んだことはありましたが、実際に海外の学生と話をすることでそのような意見を聞いたことは、私にとって衝撃的なことでした。

死刑についての議論はすっきりとした結論を出せるという類のものではなく、いまでも私自身の中でも2つの意見が葛藤を続けています。しかしそのこと自体以上に私にとって意義深かったのは、自分自身の中に自分以外の意見を受け入れようとする姿勢を持つことができたことです。

もしも私が、このサマースクール以外の場所で突然海外の学生に会わされ、死刑について話をするように指示されて意見を交換したなら、相手の意見に批判的になっていたかもしれません。サマースクールで一緒に学んだ仲間の意見であればこそ、ナショナリスティックな感情を捨てて、自分の中で葛藤することができたのです。今回学んだこのような気の持ち様を、常に保てるようにしていこうと思います。また、サマースクール中に受けた様々な講義やカンファレンスを通して理解したことを、今後の自分自身の学業、そして人生に生かしていこうと思います。

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI 政治プロジェクト研究会

"The Idea of Europe from Antiquity to the Late Eighteenth Century and Its Lessons for Today"

「ヨーロッパ」概念の変遷 - 18世紀末から現代を見る:

ジュネーブ高等研究所で学ぶ意義

日時: 2013年10月7日(月) 14:45-16:15

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎 6F・462号室

言語: 英語 (通訳なし)

講演: ドミニク・エッゲル (ジュネーブ高等研究所 国際プログラム上級代表)

司会: 小澤藍 (高崎経済大学講師:ジュネーブ高等研究所 DEA(国際関係学:2006年))

<http://eusi-politics.tumblr.com/post/62140537171/18-2013-10-7>

2. 上智大学ヨーロッパ研究所より講演会のご案内です

"Religion in European Politics: How Many Divisions?"

ヨーロッパの政治的文脈における宗教とその葛藤

日時: 2013年10月22日(火) 17:00-18:30

場所: 上智大学図書館 9階 L911

講演: フランソワ・フォレ (ブリュッセル自由大学教授)

言語: 英語・フランス語・日本語 (通訳有)

<http://www.info.sophia.ac.jp/ei/lecture.html>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授・EUSI 執行委員)

「EU 対外政策における政治原則の発展 EU 諸条約の諸改正をてがかりに」

安江則子編『EUとグローバル・ガバナンス 国際秩序形成におけるヨーロッパ的価値』(法律文化社、2013年8月13日刊行) 69-100頁。

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授・EUSI 執行委員)
「EU法の有効性及び解釈と国内裁判所の先決裁定付託義務 (1)」
【EU法における先決裁定手続に関する研究 (1)】
『自治研究』第89巻第8号(2013年8月) 93-103頁。

林秀毅 (一橋大学国際・公共政策大学院客員教授・EUSI 主任研究員)
「欧州中央銀行(ECB)の果たす役割は何ですか？」
駐日欧州連合代表部『EU MAG』(2013年9月19日)
<http://eumag.jp/question/f0913/>

【EUに関するニュース】

- 2013年8月31日 駐日 EU 代表部、異文化体験のためのイベント「こども国際フェスタ 2013」に参加
- 2013年9月2日 欧州委員会、潜在的貿易規制措置第10回報告書発表。世界全体で150の新貿易規制措置と警鐘
- 2013年9月2日 第4回目 EU 英語俳句コンテスト、応募作品710句中、ギリシャ人男性と日本人女性に最優秀賞
- 2013年9月3日 欧州委員会、初の「欧州イノベーション首都」(iCapital)募集開始。受賞都市に50万ユーロ
- 2013年9月3日 ゲオルギエヴァ欧州委員、シリア難民200万到達(半数以上が子供)に憂慮、政治的解決を強調
- 2013年9月4日 Eurostat、2013年4-6月実質GDP改定値は、ユーロ圏17カ国で前期比0.3%増・EU全域で0.4%増
- 2013年9月4日 欧州委員会、シャドバンキング抑制で、マネーマーケットファンド(MMF)規制強化法案発表
- 2013年9月5日 アシュトン EU 上級代表、バクダッドでの連続自動車爆発事件とイラクでの暴力行為に非難声明
- 2013年9月5日 ECB 理事会、主要政策金利を0.5%に据置き。ドラギ総裁、低金利維持を表明。株式市場は好転
- 2013年9月5日 ダイセルブルーム・ユーログループ議長、2014年10月より ECB の銀行監督一元化開始と言及
- 2013年9月5-6日 G20 サミット、ロシアで開催。バローゾ委員長、経済回復・成長・雇用など推進必要と声明
- 2013年9月6日 EU 及び日米露中韓印6カ国、国際熱核融合実験炉(ITER)計画閣僚級会合で ITER 国際協力を確認
- 2013年9月6日 キプロス議会、同国貯蓄銀行を中央銀行の監督下に置く法案可決。トロイカ融資へ道
- 2013年9月7日 EU 外務理事会非公式会合、シリアの化学兵器使用への非難と国連による調査の必要性を声明
- 2013年9月9日 EU、ソマリアにおけるアフリカ連合ミッション(AMISOM)に1億2400万ユーロの追加支援を発表
- 2013年9月9日 欧州委員会、外来侵入種による経済的・生態学的・政策的問題に対処する新たな法案を提出
- 2013年9月10日 アシュトン EU 上級代表、シリアの化学兵器の国際管理提案に対して歓迎の声明発表
- 2013年9月10日 欧州議会党派及び ECB、ECB の銀行監督一元化に際し ECB の銀行監督議事録の議会開示に同意
- 2013年9月11日 バローゾ委員長、一般教書演説。若者雇用や産業政策などの課題と更なる統合の必要性訴え
- 2013年9月11日 欧州委員会、電気通信規制簡素化など、域内単一電気通信市場に向けた野心的な包括的提案
- 2013年9月11日 仏政府、財政赤字目標を緩和し、成長予想も下方修正。EU が認める2年の猶予期間を活用へ
- 2013年9月11日 ポルトガル政府、2014年財政赤字目標の緩和を EU・IMF に要請。赤字対 GDP 比4%を

4.5%に

- 2013年9月12日 欧州議会、ECBの銀行監督一元化法案を圧倒的多数で可決。EU域内主要銀行約150行を対象
- 2013年9月12日 欧州議会、ビザに関する規制改正採択、ビザ取得を課す第三国に対し相互主義適用可能に
- 2013年9月12日 Eurostat、7月鉱工業生産はユーロ圏17カ国で前月比-1.5%・EU全域-1.7%と予想以上減少
- 2013年9月13日 ユーログループ財務相会合、対キプロス支援として15億ユーロ融資の月内拠出で合意
- 2013年9月13日 アシュトン EU上級代表、熊谷徳久死刑囚への死刑執行を受け前年以降日本は13件執行と非難
- 2013年9月13日 欧州委員会、新たに"イノベーション・アウトプット指標"提唱。域内でイノベーションに差
- 2013年9月13日 Eurostat、2013年4-6月就業者数は、ユーロ圏17カ国で前期比0.1%減。減少率は鈍化傾向へ
- 2013年9月14日 アシュトン EU上級代表、シリアの化学兵器の国際管理に関する米ロ合意を歓迎する声明発表

【編集後記】

今回の巻頭は、EUSIが韓国・欧州の大学と協力し8月に開催したEuro-Asia Summer Schoolの参加体験記を掲載しました。

日本の三大学からの参加学生は、専門や個々の関心も異なっていました。本年度、韓国のソウルと、ベルギーのルーヴアンで組まれたカリキュラムは、「グローバル・ガバナンス」をキーワードに、政治・経済・法律などの各分野からアプローチを行う多彩な内容となりました。

今後も違った観点からの報告を掲載する予定ですので、ご期待ください。

今回の参加体験記は、「人権と死刑制度」をテーマに書かれています。

折から、10月10日の世界・EU死刑廃止デーには、駐日欧州連合代表部において、「永山事件～日本の死刑制度を考える」と題するシンポジウムが開催されます。

EUSIもこの企画に協力しており、これに関連した展示会が当初駐日欧州連合代表部で行われ、その後、一橋大学附属図書館に移動することになっています。ご関心のある方は、是非お立ち寄りください。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSIメールマガジン編集担当)

先日9月22日にドイツ連邦議会総選挙が行われました。今回の争点のひとつは、欧州債務危機や欧州の将来像などに対してドイツがどのように舵取りをしてゆくべきか、という姿勢が問われる選挙でもありました。

蓋を開けてみれば、現職のメルケル首相率いるキリスト教民主同盟(CDU)が圧勝しました。ドイツ国民は、好調な経済指標を背景に、国内外に対するメルケル首相の安定した手腕を評価し、交代を求めなかったと考えられます。

欧州を牽引する英・仏・独の中でも、今回の選挙結果が示す独の姿は、英仏とは異なる姿勢が表れているように思われます。仏は昨年の大統領選挙で政権が交代したものの、その後財政再建と経済成長は共に思ったほどに成果を上げることができておらず、国民の間には鬱屈した不満が溜まっています。また英も、元来仏独と異なりユーロなどに参加しておらず、また統合自体に対しても半ば冷ややかな視線を送っています。再来年に与党保守党が総選挙で勝利した暁には、欧州統合に関与すべきかどうか国民投票が行われる予定です。

独はこれら英仏に比べると、より鮮明に欧州債務危機と統合に対する責任感を持っているように思われます。債務危機に対する厳しい姿勢や、銀行同盟や清算方式・加盟国財政政策などに対し、独自身の負担を過重に増やすことなく発言権を強めるというスタイルを一貫して取り続けています。彼らは必ずしも

欧州委員会の考えるシナリオと軌を一にしている訳ではなく、独自身の持つ合理的な視点からより強靱に統合を推進するという基本姿勢で臨んでいます。欧州の抱えている問題は極めて複雑であり、その中で今後4年間メルケルはどのように歴史に残る役割を果たしてゆくのか、引き続き注視して参りたいと思います。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
